



大地申 第1号

「JR東労組大宮地本第22回定期大会」 の発言に基づく申し入れ

JR東労組大宮地本は、7月3日さいたま市民会館おおみやにて「第22回定期大会」を開催しました。昨年引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し「新生JR東労組運動宣言」に基づき、運動を押し進めてきた教訓が語られ、運動方針を満場一致で確認してきました。

大会では「変革2027」とコロナ禍の中で激変する職場環境へ対応する上での苦労や、黒字化に向けた具体的取り組みを創り出してきた発言が出される一方で、21春闘においてベアゼロ、昇級係数「2」となったことや夏季手当が昨年水準以下となる「2.0ヶ月」と回答された事に対して、組合員・社員の怒りと不満の声が相次いでいるという報告がありました。さらに、大地申第18号に象徴される「不当労働行為と捉えかねない事象」によって、職場のモチベーションは大きく低下しており「自らのキャリアプランを描けず不安を抱えていることや、不当労働行為に対する怒りや不信感から転職を考える社員もいる」と、会社の将来を案じる危機迫る発言もありました。この発言に大宮地本は強い危機感を抱いています。大宮支社もこの現実我真摯に向き合い、犯罪行為を二度と発生させない強い決意と対策を講じるべきです。

現在職場では「現業機関における柔軟な働き方の実現について」「JR東日本グループ会社における副業について」などの説明会が行われていますが、社員の疑問や質問に対しての返答がないばかりか「支社に伝える事はしない」という管理者の姿勢では、組合員や社員に将来ビジョンを描かせエンゲージメントを向上させることは困難と言わざるを得ません。施策が大きく進む中において、支社と現場の歯車を噛み合わせる職場コミュニケーションをより丁寧に行い、全ての社員が納得感を持って施策を進めると同時に、問題解決に向けて労使が一体となって取り組まなくてはなりません。

労使双方が真摯に向き合い信義誠実のもと団体交渉を行うことが重要です。従いまして、下記の通り申し入れを行いますので誠意ある回答を要請します。

申し入れ項目

1. 「大宮支社年次計画2021」や黒字化達成に向けて労使で真摯に向き合い、会社発展と労働条件の維持向上に寄与してきたところである。しかし、職場において組合員に対し不利益と差別的な発言により、不安や不満の声が出ている。不誠実な会社姿勢を是正し「労使間の取扱いに関する協約」にある通り、団体交渉等において信義誠実の原則に則り真摯に議論すると共に労働協約を遵守すること。
2. 「エルダー社員の会社における業務範囲拡大と労働条件の一部変更について」に関する労使議論の経過とは異なり、エルダーとなる組合員の納得感が得られず「聞いている話と違う」「モチベーションが維持できない」などの声があることから、管理者や支社は本人との相互理解を深める丁寧な面談を行うこと。
3. 「乗務員区所事務業務体制の見直しについて」の施策実施以降、現業機関での事務担当者の負担が増加していることから、今後の展望を明らかにすると共に業務を平準化すること。
4. 大宮運転区においてタブレット交換作業を指示しておきながら「超勤は出ない」「当区の行路にノーペイ部分はないから超勤にはならない」といった管理者発言についての見解を明らかにすると共に、再発防止に努めること。
5. 新現業庁舎新設に伴う「庁舎内のレイアウト」「移転スケジュール」などを明らかにすること。また、万全な体制のもと移転出来るよう職場内で不明点など疑問を幅広く集約し、解消に向けて動き出すこと。
6. 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、消毒液・マスク・ペーパータオルなどの感染対策の備品を継続して設置し、コストダウンの対象としないこと。
7. 新型コロナワクチン接種時の勤務の取扱いについて、職場毎で副反応時の勤務の取扱いが異なることから統一すると共に、職場に再度周知すること。

信義誠実な団体交渉と、 職場問題の解消をめざします!